



外国出張報告書

平成28年3月20日

1. 出張国名 マダガスカル
2. 出張月 平成27年12月
3. 出張目的 ケイ素の肥培管理技術に関する初年度の試験設計と農家圃場調査（科研費）
マダガスカルに流通するコメの市場調査と収集（農水補助金）：B

4. 成果の概要

(1) ケイ素の肥培管理技術に関する初年度の試験設計と農家圃場調査

マダガスカル中央高地に位置する3か村（Antanetykely, Ambohibary, Mahitsy）において、のべ33件の農家圃場を対象に、作付体系、栽培法、および圃場環境に関する聞き取り調査を行った。うち、播種済みもしくは移植済みの圃場に対して、窒素とケイ素資材の組み合わせによる4処理区×2反復の処理区を設置した。合わせて、各圃場の土壌理化学性を分析するため、表層土壌（0-15cm）を採取した。また、AntanetykelyとMahitsyの2か村については、気温、日射量、降水量を観測するための簡易の気象観測装置を設置し、試験地の気象観測記録を開始した。これらの活動により、ケイ素欠乏が地域のイネ生産に及ぼす影響を明らかにするための現地試験基盤が整備された。

(2) マダガスカルに流通するコメの市場調査と収集

上記の試験地において、陸稲と水稲の主なイネ品種に対する食味や収量性に対する意識調査を実施するとともに、同国の大消費地であるアンタナナリボとアンチラベのマーケットにおいて、品種、もしくは産地による米価の違いを調査した。結果、農家の品種選択の意識として、比較的新しい作付様式である陸稲は収量性を重視しており、水稲については、収量性に加えて、早生と食味で評価の高い品種が栽培されている傾向がみられた。市場での米価は、品種や産地による価格差が僅かにみられるものの、概して、コメのブランド化はほとんど発展していないのが現状であると考えられた。